

1. 略歴

- 1986年3月 東京大学教養学部教養学科第一文化人類学専攻卒業
1986年4月 東京大学大学院社会学研究科文化人類学専攻修士課程入学
1988年3月 同上 大学院社会学研究科修士課程修了
1988年4月 同上 大学院総合文化研究科文化人類学専攻博士課程進学
1988年8月 文部省アジア諸国等派遣留学生として韓国ソウル大学校に留学（～1991年5月）
1993年3月 東京大学大学院総合文化研究科文化人類学専攻博士課程単位取得満期退学
1993年4月 日本学術振興会特別研究員（PD）（～1994年3月）
1994年4月 東京大学教養学部助手（～1996年3月）
1996年4月 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助手（～2000年3月）
1999年8月 韓国ソウル大学校社会科学研究院比較文化研究所常勤研究員（～2000年8月）
2000年4月 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助教授（～2002年3月）
2000年9月 英国オックスフォード大学訪問研究者（～2001年3月）
2002年4月 東京大学大学院人文社会系研究科助教授
2016年4月 東京大学大学院人文社会系研究科教授（現在に至る）

2. 主な研究活動

a 専門分野

社会・文化人類学

b 研究課題

韓国朝鮮社会を主たる対象として、社会・文化人類学的な観点から調査研究を進めている。博士課程在籍時より20数年間、韓国全羅北道南原地域でフィールドワークを続けており、他の地域でも短期の調査を重ねている。近年の研究課題は、(1) 産業化後の韓国社会における農村移住（都市居住者の農村地域への移住。韓国では「帰農」・「帰村」と呼ばれる）と地域社会の変化、(2) 産業化過程での韓国農村社会の変化と持続性についての歴史民族誌・対照民族誌的再分析、(3) 朝鮮半島中・南部農村社会を対象とした近現代民族誌資料の歴史人類学的再分析、(4) コミュニティ概念の再検討と近現代韓国社会への適用、(5) 日本の人類学における韓国社会研究の回顧・展望と方法論の再検討、等である。

c 概要と自己評価

研究課題(1)については、2007年3月に予備調査を開始し、2010年8月から韓国全羅北道南原市山内面と近隣地域で、移住者とコミュニティ運動の指導者・活動家を対象としたインタビュー調査と参与観察を断続的に行ってきた。その成果は、論文・学会発表等を通じて継続的に公開している。後述する研究課題(2)の成果を踏まえ、近年のコミュニティ研究の成果を取り入れつつ、移住者のネットワーク形成と在来の地域コミュニティへの接合についての分析枠組みを構築する作業を進めている。また2000年代後半以降の韓国の農村を、①国家の農業・農村政策、②都市住民が農村に向ける眼差し、③村落・地域社会の再生産、④多様な移住者の生活の営為とコミュニティ実践の交錯する場として捉え直し、そのなかで移住者の生活がどのように構築・再構築されているのかを検討する作業にも着手し、中間的な成果を論文「韓国山内地域の農村移住者と生活経験」（2016年）として刊行した。

研究課題(2)・(3)については、韓国全羅北道南原郡（当時）北部の農村で1989年7月～1990年8月に実施した滞在調査の成果を、植民地期から産業化以前までの民族誌資料と相互対照しつつ整理・分析しなおし、単著『韓国農村社会の歴史民族誌：産業化過程でのフィールドワーク再考』（風響社、2016年）として刊行した。出版に当たっては韓国国際交流財団と布施学術基金から助成を受けた。フィールドワークという人類学の方法で観察記録した民族誌的現在を長期的歴史のなかに位置付けるだけでなく、韓国農村社会に関する1960年代以来の人類学的研究の成果全体を長期持続のなかに位置付けた論考として、「画期的な著作」（嶋陸奥彦書評、『韓国朝鮮の文化と社会』16）との評価も得ている。

研究課題(4)については、日本学術振興会二国間交流事業共同研究「日韓コミュニティ研究の新動向と展望」（2016～17年度）を共同主宰し、日韓の若手・中堅人類学者11名とともに、計4回の共同研究会と共同調査を実施した。日韓コミュニティ研究の視角と方法を再検討し、今後の民族誌的研究への展望を提示するとともに、若手研究者の育成にも寄与した。

研究課題(5)については、1970年代以降の日本の人類学における韓国を対象とした社会人類学的研究の諸局面、歴史人類学的研究の展開、理論的視角、研究言語の問題等に焦点を合わせて、国内シンポジウムの企画・主宰（1回）と国際シンポジウム・学会での発表（3回）に当たった。また、「生き方の分化・再編と交渉に関する対照民族誌的研究」を主題とする共同研究を主宰し、民族誌的研究の方法としての比較・対照の可能性を検討した。

d 主要業績

(1) 著書

単著、本田洋、『韓国農村社会の歴史民族誌：産業化過程でのフィールドワーク再考』、486頁、風響社、2016.10

(2) 論文

Hiroshi Honda, Internationalization as Multi-lingual Academic Practice: A Case of Korean Ethnography, *Japanese Review of Cultural Anthropology*, 17(2), pp.57-64, 2016

本田洋, 「韓国山内地域の農村移住者と生活経験——2010年代前半の動向を中心に」, 『韓国朝鮮文化研究』, 15, 41-66頁, 2016.3

本田洋, 「일본 인류학의 한국 지역사회 연구와 역사인류학적 접근 [日本の人類学における韓国地域社会研究与歴史人類学的接近]」, SNU Department of Anthropology (ed.), *Global Korean Studies and Writing Korean Culture*, pp.68-76, Department of Anthropology, Seoul National University, 2017.9

本田洋, 「序——制度と個人（あるいは行為者）」, 『韓国朝鮮の文化と社会』, 16, 7-19頁, 2017.10

(3) 書評

三尾裕子・遠藤央・植野弘子編, 『帝国日本の記憶——台湾・旧南洋群島における外来政権の重層化と脱植民地化』, 『文化人類学』, 82(2), 239-241頁, 2017.9

(4) 学会発表

国際, 本田洋, 「1990年代後半以降の韓国における農村移住：智異山麓山内地域の事例から」, 韓日（NRF-JSPS）協力研究事業2016年夏韓日共同シンポジウム, 韓国全南大学校社会科学大学, 2016.8.19

国際, Hiroshi Honda, Internationalization as Multi-lingual Academic Practice: A Case of Korean Ethnography, *The 3rd JASCA International Symposium: The Internationalization of Japanese Cultural Anthropology and the Attempt to Strengthen the Overseas Dissemination of Information*, Ochanomizu University, 2016.11.19

国際, 本田洋, 「韓国農村民族誌とコミュニティ論：共同性の再生産を中心に」, 二国間交流事業共同研究「日韓コミュニティ研究の新動向と展望」2017年2月東京共同研究会, 東京大学本郷キャンパス, 2017.2.13

国際, 本田洋, 「일본 인류학의 한국 지역사회 연구와 역사인류학적 접근 [日本の人類学における韓国地域社会研究与歴史人類学的接近]」, *Global Korean Studies and Writing Korean Culture*, ソウル大学校アジア研究所（韓国）, 2017.9.22

国際, 本田洋, 「일본에서의 한국 인류학: 커뮤니티 연구와 역사민족지적 접근을 중심으로 [日本における韓国人類学：コミュニティ研究と歴史民族誌的接近を中心に]」, 韓国文化人類学会 2017年秋国際学術大会, 済州ハンファリゾート, 2017.10.21

国際, 本田洋, 「日本側総括と展望」, 二国間交流事業共同研究「日韓コミュニティ研究の新動向と展望」全州研究会, 全北大学校人文大学（韓国）, 2017.12.27

(5) 予稿・会議録

国際会議, 本田洋, 「1990年代後半以降の韓国における農村移住：智異山麓山内地域の事例から」, 『韓日（NRF-JSPS）協力研究事業2016年夏韓日共同シンポジウム：New Trends and Prospects of Community Studies』, 韓国全南大学校社会科学大学, 2016.8.19

(6) 会議主催(チェア他)

国内, 韓国・朝鮮文化研究会第17回研究大会シンポジウム「制度と個人（あるいは行為者）」, 企画・主宰, 明星大学, 2016.10.22

国際, 二国間交流事業共同研究「日韓コミュニティ研究の新動向と展望」2017年2月東京共同研究会, 主催・司会, 2017.2.13～2017.2.14

国際, 二国間交流事業共同研究「日韓コミュニティ研究の新動向と展望」2018年8月浜松共同研究会, 主催・司会, 静岡大学浜松キャンパス, 2017.8.7～2017.8.8

(7) 総説・総合報告

本田洋, 「《特集》韓国社会の生き方——早期留学, 改宗, 農村移住」, 『韓国朝鮮文化研究』, 15, 1-2頁, 2016.3

(8) 教科書

『社会学概論 2016』, 祐成・出口・赤川・本田・小林・中村・白波瀬・佐藤・武川・松本, 執筆, 東京大学文学部社会学研究室, 2016

『社会学概論 2017』, 祐成・出口・赤川・本田・小林・中村・白波瀬・佐藤・武川・松本, 執筆, 東京大学文学部社会学研究室, 2017

(9) 研究テーマ

文部科学省科学研究費補助金, 本田洋, 研究代表者, 「生き方の分化・再編と交渉に関する対照民族誌的研究: 韓国社会の事例を中心に」, 2015~17年度

3. 主な社会活動

(1) 学会

国内, 朝鮮学会, 常任幹事・編輯委員, 2016.4~2018.3

国際, 韓国文化人類学会, 海外理事, 2016.4~2018.3

国際, 比較文化研究, 編集委員, 2016.4~2018.3

国内, 韓国・朝鮮文化研究会, 運営委員・庶務責任者, 2016.4~2018.3

国際, *Korean Anthropology Review*, Editorial Board, 2017.4~2018.3

(2) 学外組織(学協会, 省庁を除く)委員・役員

独立行政法人日本学術振興会, 科学研究費委員会専門委員, 2015.12~2017.11